

到達目標

<演奏学科>（認定課程：中一種免（音楽））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	人間形成において教師の役割と責任を理解し、教育制度の歴史と現在の教育制度の思想やあり方を考える。 また、音楽の基礎的な理論、和声、ソルフェージュ、器楽、声楽の能力を身に付ける。
	後期	教育の理念、思想をヨーロッパ、日本での教育の歴史を通して学び、家庭、学校、社会での教育の機能を考え、教育指導に必要な知識と技術を身に付ける。学習心理学では、特に創造して表現することが学習意欲に与える影響を考える。そして日本の憲法も学びその役割を理解する。 また、前期の専門上の修学を継続しながら日本の伝統音楽の理解も深める。
2年次	前期	中学教育の教育課程を様々な角度から理解し、また学校内の授業以外の生徒会 クラブ活動に対しても理解を深める。外国語会話力も身に付ける。 中学での音楽教育に必須となる実技（合唱 リコーダー合奏）を身に付ける。 また、世界の様々な民俗音楽への理解もする。
	後期	自らの在り方、人間としての道德感を学び、教師としての自覚というものを理解させる。 前期の実技に加え、日本音楽の理解も深める。
3年次	前期	変化の激しい現代社会による教育方法の改革について学ぶ。中学の学習指導要領を理解し、弾き歌いの実践を行う。生徒の持つ悩みなど青年期の心理を理解し創造的人間の育成のための支援を考える。 自らの持つ演奏能力が教育の現場で生かせるよう向上をはかる。 中学のクラブ活動等で必要となる作曲、編曲について理解する。
	後期	学習指導案の作成、および模擬授業の実践 また引き続き演奏能力の向上をはかり、作曲、編曲を実践し、作品をつくる。
4年次	前期	学内での模擬授業の後、教育実習を行い、教育現場を具体的に体験する。 演奏能力を更に高度に引き上げるための研究を行う。
	後期	教員として必要な知識、技能を持てたか総括する。 専門の演奏能力の集大成をはかり教育の現場において自らから芸術（音楽）を実践できる能力を身に付ける。

<演奏学科> (認定課程：高一種免(音楽))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	人間形成において教師の役割と責任を理解し、教育制度の歴史と現在の教育制度の思想やあり方を考える。 また、音楽の基礎的な理論、和声、ソルフェージュ、器楽、声楽の能力を身に付ける。
	後期	教育の理念・思想をヨーロッパ・日本での教育の歴史を通して学び、家庭・学校・社会での教育の機能を考え、教育指導に必要な知識と技術を身に付ける。学習心理学では、特に創造し表現することが学習意欲に与える影響を考える。そして日本の憲法も学びその役割を理解する。 また、前期の専門上の修学を継続し、それに加え、日本の伝統音楽の歌唱、器楽の能力も身に付ける。
2年次	前期	中等教育の教育課程を様々な角度から考え、そして生徒会、クラブ活動 体育祭などのイベント行事に対しても理解を深める。外国語会話力も身に付ける。 高校で音楽教育に必要な合唱、指揮などの能力を身に付ける。 また、世界の様々な民俗音楽への理解もする。
	後期	自らの在り方、人間としての道德感を学び、教師としての自覚というものを理解させる。 前期の専門の学修を継続しつつ、日本音楽への理解も深める。
3年次	前期	変化の激しい現代社会による教育方法の改革について学ぶ。高校の学習指導要領を理解し、弾き歌いの実践を行う。生徒の持つ悩みなど青年期の心理を理解し、創造的人間育成のための支援を考える。 自らの持つ演奏能力が教育の現場で生かせるよう向上をはかる。 高校の部活動などで必要となる作曲、編曲について理解する。
	後期	学習指導案の作成、および模擬授業の実践 引き続き演奏能力の向上をはかり、作曲、編曲を実践し、作品を作る。
4年次	前期	模擬授業の実践、および実際の教育実習を行い、教育現場を具体的に体験する。 演奏能力の高度な到達を目指し、学内外での公開の場において音楽表現の実践を行う。
	後期	教員として必要な知識、技能を持てたか総括する。 専門の演奏能力の集大成をはかり、教育の現場において芸術としての音楽表現を実践できる能力を身に付ける。

<音楽文化創造学科> (認定課程：中一種免(音楽))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	人間形成において、教師の役割と責任を理解し、教育制度の歴史と現在の教育制度の思想やあり方を考える。また、音楽上の基礎となる楽典を修め、器楽、声楽の学習を始める。 基礎的な外国語能力を身に付ける。
	後期	教育の理念・思想をヨーロッパ、日本での教育の歴史を通じて学び、家庭・学校・社会での教育の機能を考え、教育指導に必要な知識と技術を身に付ける。そして日本の憲法も学びその役割を理解する。 また、前期の楽典に続き、和声の基本的な理解を深める。器楽、声楽の個人的能力を身に付ける、日本の伝統音楽にも触れ、直接体験する。
2年次	前期	中等教育の教育課程を様々な角度から理解し、また、中学の授業以外の生徒会、クラブ活動などのあり方に対しても理解を深める。 音楽の授業で必要となるリコーダー合奏、指揮の能力を身に付け、世界の民俗音楽にも知識を広める。 一年次からの和声を更に高度に理解し、音楽能力の向上をはかる。
	後期	自らの在り方、人間としての道德感を学び、教師としての自覚というものを理解させる。 前期からの実技、指導などを学修し、和声に加え聴音の能力も身に付ける。 日本音楽の理解をする。
3年次	前期	変化の激しい現代社会での教育方法の改革について学ぶ。中学の学習指導要領を理解し、弾き歌いの実践を行う。また、生徒の持つ悩みなど青年期の心理について理解を深める。 和声の総まとめとしての理解を深め、簡単な作曲、およびピアノ伴奏づけなどの編曲を行う。
	後期	学習指導案の作成および模擬授業の実践を行う。 対位法について理解を深め多声部体の音楽の理解を深める。さらに、変奏曲、ソナタ形式の曲を作曲し、合唱曲も作曲し編曲できる能力を身に付ける。
4年次	前期	模擬授業の実践および、実際の教育実習を行い、教育現場を具体的に体験する。 これまでの理論的理解と実践に加えキーボードハーモニーも学び、現場即戦力の能力を身に付ける。
	後期	教員として必要な知識、技能を持てたか総括する。 様々な理論に関わる能力が総合的に身に付いたかを確認し、未熟な部分については補充する。

＜音楽文化創造学科＞（認定課程：高一種免（音楽））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	人間形成において、教師の役割と責任を理解し、教育制度の歴史と現在の教育制度の思想やあり方を考える。 又、音楽上の基礎となる楽典を修め、器楽、声楽の実技の学習を行う。 基礎的な外国語会話力を身に付ける。
	後期	教育の理念・思想をヨーロッパ、日本での教育の歴史を通じて学び、家庭・学校・社会での教育の機能を考え、教育指導に必要な知識と技術を身に付ける。そして日本の憲法も学びその役割を理解する。 また、前期の楽典に続き、和声の基本的な理解に着手する。器楽・声楽の個人能力を身に付ける。そして、日本の伝統音楽にも触れ、直接体験する。
2年次	前期	中等教育の教育課程を様々な角度から理解し、また、高校の授業以外の課外活動、生徒会、イベント行事などのあり方に対しても理解を深める。 音楽の授業で必要となる合唱・指導の能力を身に付け、世界の民俗音楽にも知識を広める。 一年次からの和声を継続し、理論の裏づけも行い、音楽能力の向上をはかる。
	後期	自らの在り方、人間としての道徳感を学び、教師としての自覚というものを理解させる。 前期からの実技的能力を学修し、和声・理論に加え聴音の能力も身に付ける。 日本音楽の理解をする。
3年次	前期	変化の激しい現代社会での教育方法の改革について学ぶ。高等学校の学習指導要領を理解し、弾き歌いの実践を行う。また、生徒の持つ悩みなど青年期の心理について理解を深める。 和声のまとめとして簡単な作曲、ピアノ伴奏つけなどの編曲を行う。
	後期	学習指導案の作成および模擬授業の実践を行う。 対位法について理解を深め、高校の授業の多声部体合唱の指導に生かせるようにする。 また、変奏曲、ソナタ形式の曲を作曲し、合唱曲などの編曲できる能力を身に付け、高校の授業・課外活動に生かせるようにする。
4年次	前期	模擬授業の実践および、実際の教育実習を行い、教育現場を具体的に体験する。 これまでの音楽理論の和声、聴音の学修に加え、キーボードハーモニーも学び、教育現場での対応力の向上を目指す。
	後期	教員として必要な知識、技能を持たせたか総括する。 様々な理論に関わる能力が総合的に身に付いたかを確認し、未熟な部分については補完する。

＜美術学科＞（認定課程：中一種免（美術））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	美術の基礎的表現力を養うため、デッサンや色彩画の実技を通して各自の描写力、観察力と集中力を高めるとともに、西洋美術史を通して、芸術文化の歴史を学ぶ。 更に「教職論」「学習心理学」「教育制度論」の概要を学ぶことで教職に対する基礎的な知識と意欲を持つ。
	後期	美術の基礎的な実技制作（絵画・デッサン・彫刻）を繰り返すことで、美術の持つ基礎的構造である構図、形態、色彩等の美術知識と制作への理解を深める。 「教育原論」「教育課程論」「特別活動論」を学ぶ。更に、専門的教科との相互的効果を生む中で、教職の具体的な意識付けに結び付ける。
2年次	前期	美術的視野を広げるため、版画・映像メディア表現（絵画）等、各美術領域の基礎を学び修得することで、制作に向けて表現・構成のありかたを探究する。 また、日本の美術史にも注目し学習することで、自身への肉付けをはかる。更に「教育相談」の修得で美術教育における実践的知識を身につける。
	後期	前期に引き続き、各美術実技を通し、モチーフ（心象を含む）と対峙することで「観ること・感じること」の大切さを学ぶ。また、制作の基を成す、絵画論、絵画技法材料論等を学ぶことで様々な表現手法の把握に努める。また、映像メディア表現（デザイン）を前期の絵画編に引き続き学ぶことで中学美術への対応をはかる。「生徒・進路指導論」「教育方法論」の概要を学び、教育実践が可能と成る知識と能力を身に付ける。
3年次	前期	美術のより実践的な技術・知識を学ぶとともに、様々なワークショップ、インターシップ等を学ぶ中、現代の社会的ニーズから生まれる必要なスキルの修得を目指す。更に「教職工芸演習」を修得することで美術の持つ手仕事の大切さを学び人間力強化に努める。また、「教科教育法の研究1（美術）」を通じ、教師の有り様を考察するとともに実践的美術教育を考える。
	後期	前期に引き続き「教科教育法の研究2（美術）」を押し進め教師像への意識を高める。近代から現代そして明日を見すえ、個々の課題への能動的な取り組みに努める。また、「美術研修」を受講することで制作・研究を通じ更なるオリジナルな表現世界の構築を目指す。 各種美術的プロジェクトへの参加も積極的に取り組み、自己と社会との掛かわりを考察する。
4年次	前期	卒業制作・研究に向け、その計画を見通すとともに自身の持つ力の活用を具体化する。教育実習が充実したものに成るように実習校との調整をはかる。実習の成果を整理して今後の進路に活用するようまとめる。 後期に始まる教職実践演習（中・高）にそなえ、教職課程4年間の課題をまとめる。
	後期	制作研究を主体とした自己表現の確立と社会に美術で問い、美術で繋り、美術芸術を役立てる、ことなどを考察した研究発表「卒業制作・研究」でもって4年間の集大成とする。

<美術学科> (認定課程：高一種免(美術))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	美術の基礎的表現力を養うため、デッサンや色彩画の実技を通して各自の描写力、観察力と集中力を高めるとともに、西洋美術史を通して、芸術文化の歴史を学ぶ。 更に「教職論」「学習心理学」「教育制度論」の概要を学ぶことで教職に対する基礎的な知識と意欲を持つ。
	後期	美術の基礎的な制作(絵画・デッサン・彫刻)を繰り返すことで、美術の持つ基礎的構造である構図、形態、色彩等の美術知識と制作への理解を深める「教育原理」「教育課程論」「特別活動論」を学ぶ。更に専門的教科との相互的效果を生む中で、教職の具体的な意識付けに結び付ける。
2年次	前期	美術的視野を広げるため、版画・映像メディア表現(絵画)等、各美術領域の基礎を学び修得することで制作に向けて表現・構成のありかたを探究する。 また、日本の美術史にも注目し学習することで、自身への肉付けをはかる。更に「教育相談」の修得で美術教育における実践的知識を身につける。
	後期	前期に引き続き、各美術実技を通し、モチーフ(心象を含む)と対峙することで観ることを感じることの大切さを学ぶ。また、絵画制作の基を成す、絵画論、絵画技法材料論等を学ぶことで様々な表現手法の把握に努める。また、映像メディア表現(デザイン)を前期の絵画編に引き続き学ぶことで高等学校美術への対応をはかる。「生徒・進路指導論」「教育方法論」の概要を学び、教育実践が可能と成る知識と能力を身に付ける。
3年次	前期	美術のより実践的な技術・知識を学ぶとともに、様々なワークショップ、インターシップ等を学ぶ中で、現代の社会的ニーズから発生する各々に必要なスキルの修得を目指す。更に「美術研修」「教職工芸演習」を修得することで美術の持つ手仕事の大切さを学び人間力強化に努める。また、「教科教育法の研究1(美術)」を通じ、教師の有り様を考察するとともに実践的美術教育を考える。
	後期	前期に引き続き「教科教育法の研究2(美術)」を押し進め教師像への意識を高める。近代から現代そして明日を見すえ、個々の課題への能動的な取り組みに努める。また、「美術研修」を受講することで制作・研究を通じ更なるオリジナルな表現世界の構築を目指す。各種美術的プロジェクトへの参加も積極的に取り組み、自己と社会との掛かわりを考察する。
4年次	前期	卒業制作・研究に向け、その計画を見通すとともに自身の持つ力の活用を具体化する。教育実習が充実したものに成るように実習校との調整をはかる。実習の成果を整理して今後の進路に活用するようまとめる。 後期に始まる「教職実践演習(中・高)」にそなえ、教職課程4年間の課題をまとめる。
	後期	制作研究を主体とした自己表現の確立と社会に美術で問い美術で繋り、美術芸術を役立てることなどを思考した研究発表「卒業制作・研究」でもって4年間の集大成とする。

＜美術学科＞（認定課程：高一種免（工芸））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>工芸・美術の基礎的表現力を養うため、デッサンや色彩画の実技を通して各自の描写力、観察力と集中力を高めるとともに、美術史を通して、人間の歴史を学ぶ。</p> <p>更に「教職論」「学習心理学」「教育制度論」の概要を学ぶことで教職に対する基礎的な知識と意欲を持つ。</p>
	後期	<p>工芸美術の基礎的な制作と図学を繰り返し学ぶことで、美術の持つ基礎的構造である構図、形態、色彩等の美術的知識と制作への理解を深める「東洋美術史」「教育原理」「教育課程論」「特別活動論」を学ぶことで専門的教科との相互的効果の下、教職の具体的な意識付けに結び付ける。</p>
2年次	前期	<p>工芸・美術的視野を広げるため、「美術の世界」等で日本美術史、造形論、美術の世界等、各美術領域の基礎を学び修得することで制作に向けて表現・構成のあり方を探究する。</p> <p>また、日本の美術史にも注目し、学習することで、自身への肉付けをはかる。</p> <p>更に「教育相談」の修得で美術教育における実践的知識を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、各美術実技を通し、モチーフ（心象を含む）と対峙することで観ることを感じる事の大切さを学ぶ。また、工芸制作の基を成す、工芸理論、デザイン理論等を学ぶことで様々な表現手法の把握に努める。「生徒・進路指導論」「教育方法論」の概要を学ぶことで教育実践が可能と成る知識と能力を身に付ける。</p>
3年次	前期	<p>工芸美術のより実践的な技術・知識を学ぶとともに、様々なワークショップ、インターンシップ等、現代の社会的ニーズを踏まえた、各々に必要なスキルの修得を目指す。</p> <p>更に「絵画技法材料論2」「教職工芸制作」を修得することで美術の持つ手仕事の大切さを学び人間力強化に努める。また、「教科教育法の研究1（工芸）」を通し、教師の有り様を考察するとともに実践的工芸教育を考える。</p>
	後期	<p>前期に引き続き「教職デザイン演習」を押し進め教師像への意識を高める。近代美術史を通し近代から現代そして明日を見すえ、個々の課題への能動的な取り組みに努める。また、制作・研究を通じ更なるオリジナルな表現世界の構築を目指す。更に各種美術的プロジェクトへの参加も積極的に取り組み、自己と社会との掛かわりを考察する。</p>
4年次	前期	<p>卒業制作・研究に向け、その計画を見通すとともに自身の持つ力の活用を具体化する。教育実習が充実したものに成るように実習校との調整をはかる。実習の成果を整理して今後の進路に活用するようまとめる。</p> <p>後期に始まる「教職実践演習（中・高）」にそなえ、教職課程4年間の課題をまとめる。</p>
	後期	<p>4年間の集大成として卒業制作・研究とその発表に全力を注ぐ。</p>

<デザイン学科> (認定課程：中一種免(美術))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	対象をよく観察することと、それをもとに描くこと、構想した内容をもとに計画的に立体物を制作することを修練する。これらの基礎的な造形技法の延長上にある、現代のデザインや工芸の多様な在り方についても理解を深める。また「学習心理学」においては描く行為やそれによるコミュニケーションが生徒の学習意欲に与える好影響についても考察、試行する。
	後期	我が国固有の美術、工芸の在り方について理解を深める。他方、19世紀以降のデザインの展開と、それによって人々の生活や価値観がどのように変化したかを理解する。また、科学的な色彩の仕組みと、人間の感性への影響/効果についても考察する。
2年次	前期	近代に成立した複製芸術（写真、映像）および20世紀後半から登場するデジタルメディアにおける視覚的表現（CG、Web、）について、審美的な視点と、情報伝達機能に関する視点から理解を深める。また「教育相談」においては生徒の持つ悩みや困難を映像やその解説をとおして意識化し、個々人の心への負荷を低減する方法を学ぶ。
	後期	欧米世界を中心とする絵画、彫刻、建築の各領域の歴史を理解すると同時に、それらに関して興味をもち、ディスカッションができる能力を身につける。また絵画表現に関しても、その成り立ちについて理解を深める。
3年次	前期	デザインの専門分野における制作プロセスを学ぶと同時に、発案から完成までの時間的経過を、分析的にプレゼンテーションできる能力を身につける。工芸分野においては、素材の特性を研究すると同時に各種技法の習得を目指す。
	後期	デザイン各分野における制作技法を学ぶ。またそれによって生産される製品やコンテンツが生活や文化にあたえる効果に関しても理解を深める。学内の授業以外にも、展覧会や各種プレゼンテーションに接することにより、実社会における状況や今後の可能性について展望を開く。また、「教科教育法の研究 2 (美術)」においては、現代アートと現代デザインに共通するテーマを中学校の実技授業の中でどのように展開するのか探求する。
4年次	前期	自分が制作したものを客観的に自己評価すると同時に、他者とのディスカッションにより制作意図や素材、技法などについて検証ができる能力を身につける。またそれらを一般的事象や過去のデータと結びつけ論理的にプレゼンテーションできるようにする。また「教育実習」の具体的教案を策定する際に、過去に学んだ基礎的な造形方法を参照し、それを効果的に活用する方法を研究する。
	後期	東洋的な価値観を背景とする文化的事象を探求する。また、アジアの文化とその歴史に対して積極的に興味を持ち、生活や風土、宗教性などとの関連についても理解する。

<デザイン学科> (認定課程：高一種免(美術))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>観察と描写の訓練をとおして視覚表現の基礎的技術を身につける。他方、立体表現の基礎を理解し、原案から完成形態までの制作プロセスを計画的に進行させる能力を身につける。以上の基礎的技法を理解するとともに、デザインの多様な在り方についても発展的に学習し、これらについて他者に解説ができる能力を身につける。また、「学習心理学」においてはイラストやドローイングを描き他者に見せることで、生徒自身のコミュニケーション能力を高め、学習意欲を向上させる方法についても考察、試行する。</p>
	後期	<p>近代以降のデザインの歴史を文化、政治、メディア等の状況と関連づけながら理解する。また色彩に対する科学的理解と、それが感性にあたえる影響に関しても知識を深める。</p> <p>ファンデーションにより制作された作品を自己表現としてまとめ、レビュー展により展示することでどのように見られるのかの経験をつむ。</p>
2年次	前期	<p>19世紀以降に開発された写真、映像、および20世紀後半のコンピュータメディアによる表現についての概要を理解し、それ以前の旧来メディアとこれらの新メディアがどのように交配しながら、我々の生活を変化させてきたのかを理解する。また映像メディアの情報伝達（プレゼンテーション）ツールとしての機能についても理解を深める。他方「教育相談」においては、映像作品をとおして、生徒各自が持つ悩みを顕在化／共有化する術について学ぶ。</p>
	後期	<p>西洋絵画、彫刻、建築などの様式や表現技法、効果等について理解を深め、ヨーロッパ社会の文化的コンテクストとの関連において、それらがどのように機能したかを探求する。</p>
3年次	前期	<p>デザインや工芸の各分野における具体的な制作プロセスを理解するとともに、現代社会に有益な製品やコンテンツを制作するための知識や技術を身につける。また、論理的な思考能力を身につけ、自らの制作プランについて、他者とディスカッションができるレベルに到達する。</p>
	後期	<p>製品やコンテンツが、現代社会の中でどのように機能し、文化に対してどのような影響を与えるのかを考察し、それについて他者にプレゼンテーションができる能力を身につける。また、学外の展示施設やアーカイブ等を見学することにより、社会の中でデザインが担うものを、能動的に探求する姿勢を身につける。また、「教科教育法の研究2(美術)」においては、現代のアート表現やデザイン表現に共通する問題意識を理解し、それらの文脈を高等学校の授業においてどのように展開するのか研究する。</p>
4年次	前期	<p>自ら制作したプロトタイプに対する多様なレベルからの評価、検証とブラッシュアップにより、現代の重層的な価値観に耐え得る完成形態を目指して試行をおこなう。またそのプロセスを自ら記録し、思考の時間的経過を意識化するとともに、他者に対してもそれを矛盾なく伝達する能力を身につける。他方、「教育実習」の具体的な教案を策定する際に、過去に学んだ基礎的な造形方法や、応用的な事例を参照し、それを効果的に活用する方法を研究する。</p>
	後期	<p>日本的な文化や、東洋的な文化の歴史を、具体的な絵画、建築、彫刻等をとおして学習し、その背景にある精神性や、生活や風土との関連について理解する。</p>

<デザイン学科> (認定課程：高一種免（工芸）)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	多様な側面を併せ持つデザインから、イメージをより正確に伝え、生徒に対して知的にもものを見る眼や、手作業による素材の理解、形への興味などを持てるような導入のありかたを習得する。また、「学習心理学」においてはイラストやドローイングを描き他者に見せることで、生徒自身のコミュニケーション能力を高め、学習意欲を向上させる方法についても考察、試行する。
	後期	産業革命以来のデザイン史の成立過程から現代へと至るデザインを理解し、そこに手作業を中心とする工芸分野がどのように関わってきたかを理解する。
2年次	前期	手仕事の中から素材の特性（土、糸）を知り、ものを創造する力を日常の暮らしの中から見つける視点を、解説と実技をとおして他者に理解させることができるようになる。他方「教育相談」においては、映像作品をとおして、生徒各自が持つ悩みを顕在化／共有化する術について学ぶ。
	後期	近代における工芸の成り立ちを理解するとともに、技術面からも工芸の基礎を学び、手作業から素材の特性を理解する能力を習得する。
3年次	前期	工芸における多様な造形表現を理解するとともに、今日における日本的な工芸表現の新たな可能性についても探求する。また、その概要について他者に論理的な解説や、プレゼンテーションができる能力を身につける。
	後期	現代におけるデザインの多様な在り方を理解し、工芸に関する分野がそれとどのように関連づけられているのかを、他者に対して解説できる能力を身につける。また、「教科教育法の研究2（工芸）」においては、現代のアート表現やデザイン表現に共通する問題意識を理解し、それらの文脈を高等学校の授業においてどのように展開するのか研究する。
4年次	前期	モノを創造することは、素材研究や、手作業のプロセスから自ら発見することの集積であることを、実際の制作作業の中から理解する。またこれらのプロセスを他者に対して解説できる能力を身につける。他方、「教育実習」における具体的な教案を策定する際に、過去に学んだ基礎的な造形方法や、応用的な事例を参照し、それを効果的に活用する方法を研究する。
	後期	多様な学問領域と重なりながら拡張するデザインを、工芸を中心とする視点から理解し、その内容を他者に対しても解説できる能力を身につける。

<子ども発達学科> (認定課程：幼一種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」の概要を学び、4年間の学びの見取り図をもち、履修や進路を決定する基礎的な知識を得る。 ○ゼミナールⅠにより、大学教育について理解するとともに、ともに学ぶ仲間を得る。 ○子どもの発達や保育の原理について基礎的な知識を獲得する。 ○「保育内容演習」「音楽」など、芸術的内容をもつ科目を通して実践的内容を学びはじめる。 ○「保育内容総論」によって、上記の知識・スキルのもつ教育的社会的意味をまとめて理解する。 ○ゼミナールⅠでの北名古屋夏まつり(保育園・児童館)など、実際の子どもや地域とかかわっていく基本的スキルを身に付け、地域と積極的にかかわる意欲をもつ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○66条の6の科目を学びつつ、そこで学んだことが各自のめざす教員生活や教育実践にとつてもつ意味を理解し、足りないところは自分自身で補っていく姿勢をもつ。 ○進路についてあらためて考え教育実習を行う校種(幼稚園または小学校)を決定する。 ○「社会福祉Ⅰ」など保育に関する科目を学び、進路選択や教員生活を考える基礎的な知識をもつとともに、特に虐待や貧困などについて学び、子ども観や社会観を豊かにする。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○本学附属クリエ幼稚園での1週間の教育実習(基本)があるが、実習に臨むにあたって自己の課題を明らかにするとともに、実習後は振り返りを通して、新たな課題を明らかにするとともに、とりわけ座学の授業を受ける意味を自覚する。 ○「保育者論」などでは、現実の「園」を想定した内容を取り入れ、教育実践に活かせるような知識を身に付ける。また、基礎知識を学ぶとともにそれらを実践的に確認する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの発達を踏まえた活動や援助・環境育成を構想できるように指導案などの作成を練習する。 ○3年次のゼミナールⅢへの準備として、各自、教師像や取り組みたい教育実践を考えつつ、深めたい専門的テーマをもつようにする。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ゼミナールⅢでは、専門テーマに基づいた基礎的な研究活動をはじめめる。ゼミごとにこれまで学んだことをさらに高度化していくとともに、フィールドワークなど現場とかかわる際に必要なルールや社会性を身に付ける。 ○子どもや地域とかかわる意欲的な活動を推奨する。研究活動や就職活動との連携を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○10月の教育実習(応用)(3週間)で充実したものになるよう、大学で学んだことが実習で活かすことができるように工夫するとともに、実習の成果をていねいに整理して今後の進路に活かせるようまとめる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業論文・卒業制作をすすめる。 ○足りないと思われる人あるいは深めたい人伸ばしたい知識・スキルについて、共通教育科目や教養科目などを積極的に履修して学ぶ(特に芸術的科目)。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育教職実践演習」で、これまで学んだことをまとめ、特に4月からの教員生活を円滑にはじめられるように課題をまとめる。 ○卒業論文・卒業制作を完成させる。

<子ども発達学科>（認定課程：小一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」の概要を学び、4年間の学びの見取り図をもち、履修や進路を決定する基礎知識を得る。 ○ ゼミナールⅠにより、大学教育について理解するとともに、ともに学びをつくっていく仲間を得る。 ○ 「教科に関する科目」から学びはじめる。授業内容を特にスキルの面から学ぶ。特に芸術的要素の強い「音楽」「図画工作」「体育」は卒業必修科目であり、ここで学んだことが、その後の履修で学習指導案や社会的背景や制度的理解の中で位置付けていくようにする。 ○ 「国語」「社会」「算数」は、教科内容を深く学ぶことで、学生の学力回復やリメディアル教育になるようにする。 ○ ゼミナールⅠでの北名古屋夏まつり（保育園・児童館）など、実際の子どもや地域とかかわっていく基本的スキルを身に付け、地域と積極的に係わる意欲をもつ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 66条の6の科目を学びつつ、そこで学んだことが各自のめざす教員生活や教育実践にとってもつ意味を理解し、足りないところは各自で補っていく姿勢を持つ。 ○ 2月に課外の「小学校体験活動」で近隣の小学校に行き、児童や学校現場の状況を体験するとともに、進路適性を考える機会とする。進路についてあらためて考え、少なくとも教育実習を幼稚園で行うか小学校で行うか決定する。 ○ 「社会福祉1」など保育に関する科目を学び、進路選択や教員生活を考える基礎的な知識をもつとともに、特に虐待や貧困など学び、子ども観、社会観を豊かにする。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教職論」など、現実の「教員」や「小学校」を想定して、教育実践ができるような知識を身に付ける。また、想定できるだけの基礎知識を学ぶ。 ○ 各教科「指導法」で、教え指導する立場から学習指導案を作成し、模擬授業によって実際的なスキルを練習する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年次のゼミナールⅢへの準備として、各自、教師像ややりたい教育実践を考えつつ、深めたい専門的テーマを持つようにする。 ○ 「初等教育学」などで、小学校の学びを前後の学校階梯の状況から捉えられるようにする。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゼミナールⅢで、専門テーマに基づいた基礎的な研究活動をはじめめる。ゼミごとにこれまで学んだことをさらに高度化していくとともに、フィールドワークなど現場と係わるルールや社会性を身に付ける。これを各自のめざす教師像の個性や〈強み〉につなげる。 ○ 「教育課程論」など、いわば各論として実際の教育活動を詳細にとらえていく。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10月の教育実習（4週間）が充実したものになるよう、大学で学んだことが実習校とマッチするよう調整をはかるとともに、実習の成果をていねいに整理して今後の進路に活かせるようまとめる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 採用試験に向けて、教師像や指導案など、これまで学んだことを活かしていく。 ○ 卒業論文・卒業制作をすすめる。 ○ 足りないと思われるあるいは深めたい伸ばしたい知識・スキルについて、共通教育科目や教養科目など積極的に履修して学ぶ（特に芸術的科目）。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教職実践演習」で、これまで学んだことをまとめ、特に4月からの教員生活を円滑にはじめられるように課題をまとめる。 ○ 卒業論文・卒業制作を完成させる。